

英語絵本の読み聞かせに対する学生の態度

— 教員養成課程における試み —

城 一 道 子*

要 約

本稿は、英語教育における英語絵本の読み聞かせ体験の有効性を検討することをその目的とし、読み聞かせの経験のない幼児教育・保育専攻学生に、クラスメートの前で英語絵本の読み聞かせを行うという体験をさせ、学生がその体験をどのように捉えたのか、アンケートによる量的データと自由記述による質的データをもとに分析・考察を行った。読み聞かせ体験をとおして、英語絵本の読み聞かせに対する肯定的な態度が形成されたこと、読み聞かせの技能に関してその重要性の認識がもたらされたこと、また、読み聞かせが学生の読み聞かせ行動に影響を与えることについて述べる。

1. はじめに

2011年から小学校外国語活動が必修になり、全国の公立小学校において5・6年生を対象に年間35時間の外国語活動が実施されている。「英語ノート」や「Hi, friends!」を中心に活動が行われているが、児童がある程度まとまりのある英語を聞き、英語の音声的特徴や異文化にふれることのできる活動として、絵本の読み聞かせの導入が進んでいる。

本学では、中学校・高等学校教員（英語）の免許資格の取得が可能であるが、2014年度にこどもコミュニケーション学科が開設され、幼稚園教員免許資格の取得が可能となり、これを機に、英語教育の早期化傾向や学生のニーズを鑑み、英語絵本に慣れ親しむこと目的とした科目「LR Reading I」および英語絵本の読み聞かせを目的とした「LR Reading II」を開講した。英語絵本は、基礎的な英語表現の宝庫であり、また、読み聞かせをとおして音素の発音、弱形、音声変化、強勢、リズム、イントネーションなどの英語の音声体系を体得するのに優れており、リーディング

能力の基礎となる音読力を高めるのに効果的である。また、読み手として絵本に対する理解を高め、その絵本を聞き手に思いが伝わるように読む行動は、スピーキングの土台をつくるのに役立つだけでなく、音声コミュニケーションを楽しみ、易しい英語で理解させることのできる英語使用能力をもつ英語教員や指導者を育てるのに有効な活動となるのではないだろうか。

読み聞かせの魅力は、読み聞かせの体験を通して初めてそのよさがわかるという（笹倉、1999）。本稿では、読み聞かせの経験のない学生が英語絵本の読み聞かせを体験してその体験をどのように捉えたのか、英語絵本を読むことへの好意度、英語絵本の読み聞かせに対する態度、読み聞かせの技能に関するその重要性の認識の観点から考察を行う。本稿は、本学での教員養成課程における英語絵本の読み聞かせの意義を明確にするためのパイロットスタディとして位置づけ、英語教育における英語絵本の読み聞かせ体験の有効性を検討することを目的とする。

2. 絵本の読み聞かせに関する研究

母語である日本語による読み聞かせに関して

* 江戸川大学

は、保育の教育と心理学的研究の領域で、絵本、聞き手、読み手などの観点から多くの研究が行われている。読み手に関しては、心理学的研究では、読み聞かせの技法としての発声、表現力、本の提示の仕方、絵本についての読み手自身の内容把握の程度、子どもの発達や行動特徴についての理解などの観点から、子どもに及ぼす影響についての研究が多い（今井・中村、1993；中村、1991）。また、保育の教育の領域では、読み手である保育者の、意志や読み聞かせの捉え方、読み聞かせ行動を検討した研究、読み手の経験年数の違いを検討した研究など、読み手がいかに子どもの物語理解に貢献できるかという観点からの研究が中心である（玉瀬、2012）。

これに対し、玉瀬（2012）は、読み聞かせによって影響を受けるのは聞き手として子どもたちだけでなく、読み手自身も読み聞かせ行動をとることによって何らかの影響を受けているのではないかと、幼児保育専攻学生を対象に授業中にクラスメートの前で絵本を読み聞かせるという経験をさせ、その結果、読み聞かせを経験することで学生の読み聞かせへの好意度が高まること、また、読み聞かせの前後をとおして「声の大きさ・明瞭さ」「速さ（スピード）」「感情をこめる」「会話の工夫・声を変える」という読み聞かせの技能についてその重要性が認識されたことを報告している。

外国語である英語での絵本の読み聞かせに関しては、小玉他（2014）は、5回の公開講座「英語で読書：絵本の読み聞かせに挑戦」において、中学生や成人を対象に英語絵本の読み聞かせの実践を行っている。成人の参加者は、長期の英語学習歴を持つ人や子ども向けに英語を教えた経験のある人、久しぶりに英語を聞いたり読んだりするという人たちであるが、「声を出すこと」を楽しみ、だんだん「読み聞かせ」が楽しくなってきたことが報告されている。竹下他（2006）では、子どもを対象とする英語指導者の育成の試みにおいて、「英語と子どもが好き」「教育にも関心がある」という学生に学生同士読み聞かせを体験させ、表情

や話し方の工夫、発音のむずかしさ、ページのめくり方など読み聞かせの技法への意識が高まったこと、一緒に楽しむことの重要性に気づいたことなどが報告されている。

3. 方法

3.1 対象者と授業内容

対象者は、本学のこどもコミュニケーション学科の前期英語必修科目である「LR Reading I」を受講した幼児教育・保育専攻の1年生である。

「LR Reading I」は、英語絵本になじみのない学生に英語絵本に親しませることを目的とし、絵本や児童用図書を含む英語多読用図書が約3,000冊備えられている図書館の一室で、英語絵本や子ども向けの図書の中から学生が自由に読みたい本を選び、自分のペースで読む pleasure reading を中心とした授業であるが、授業期間中に、学生に、5人ずつのグループで各自好きな絵本をクラスメートの前で読むという読み聞かせを2回体験させた。英語を声に出して読むことに苦手意識をもつ学生も少なからずいるので、希望者を対象に、別室で発音、ストレス、イントネーションなどの音声指導や、必要に応じて、音読の個別指導を行ったが、望ましい読み聞かせの技能に関する説明や指導は特に行っていない。

3.2 データ収集・分析の方法

アンケートによる量的データと自由記述による質的データを収集し、分析を行った。アンケート調査は授業最終日の7月24日に実施し、あらかじめ設定した質問項目（表1参照）に項目ごとに「よく当てはまる」から「当てはまらない」まで5段階で評定を求め、評定値ごとに回答した割合および数値化した評定の平均値および標準偏差（SD）を算出した（対象者33名）。

記述データは、6月26日および7月17日に実施した読み聞かせ直後に「できたこと、できなかったこと、できるようになりたいこと」を書くように指示した振り返りシート（6月26日分は

記述データ①、7月17日分は記述データ②)、および400~600語程度で授業の振り返りをまとめるようあらかじめ指示し、授業最終日の7月24日に回収したレポート(記述データ③)から収集した。記述データ①の対象者は34名、記述データ②は27名、記述データ③は32名である。

全記述は生データとして、まず、記述データごとにそのままエクセルシートに入力した。佐藤(2008)の質的データ分析法を参考に、記述データに「コード」(小見出し)をつけていき、その後、エクセルシートの1列目に事例番号、1行目にコードにつけたラベル名を入れ、記述データから切り出した文書セグメントをそのまま、あるいは長い場合は要約して、コードごとに貼り付け、各記述データについて「事例—コード・マトリックス」を作成し、データベース化した。佐藤(2008)によれば、このようなデータ・マトリックスを作成してみることは、質的データ分析の中間段階において、それぞれの事例の個別性や具体性に対して配慮しつつ、かつ、事例の特殊性を超えた一般的なパターンやある種の規則性を見出していくうえで有効な作業になるという。

記述データ①および②には、読み聞かせ技能にかかわるコード—「はっきり・大きな声で読む」「スラスラ読む」「ゆっくり・間を取って読む」「感情(気持ち)を込めて読む」「発音に注意し抑揚をつけて読む」「聞き手を意識して・目を見て読む」「本の持ち方やページのめくり方」「内容理解」—を割り当て、これらのコードは読み聞かせ技能の認識について分析・考察する際に用いた。記述データ③では、絵本の読み聞かせに関する先行研究を参考に、受講生の英語絵本に対する好意度や英語絵本の読み聞かせに対する態度を理解するうえでカギとなる中核的な概念カテゴリーとしてのコード—「英語絵本への興味」「英語絵本の読みやすさ・取り組みやすさ」「英語絵本と英語学習」「読み聞かせ技能」「読み聞かせへの態度」—を選び出し、これらのコード下の事例を中心に英語絵本の読み聞かせに対する態度形成について考察した。記述データ①、②および③の「事

例—コード・マトリックス」は、そのディスプレイの一部を資料1、2および3として示す。

記述データの分析に関しては、妥当性、信頼性を確保するためにデータの意味解釈において第三者を交えて検討を行うべきであるが、今回の調査は今後の研究の示唆を得るための事前調査であることから、筆者一人でデータの意味解釈を行った。

4. 結果と考察

以下、上記アンケートの調査結果および記述データをもとに、英語絵本の読み聞かせに対し体験をとおしてどのような態度が形成されたのか、英語絵本を読むことおよび読み聞かせへの好意度、読み聞かせへの肯定的な態度形成の要因、読み聞かせにかかわる技能の重要性の認識の観点から、考察を述べる。本稿において、「態度」とは、人のものの見方、考え方、行い方の傾向であり、知識、理解、思考力を実際に発動させようとする傾向と定義する(玉瀬、2012)。

4.1 英語絵本を読むこと・読み聞かせへの好意度

アンケート調査結果は表1に示すとおりである。これによると、受講生のうち90.9%(割合は「よく当てはまる」と「当てはまる」の合計。以下同じ。)が「英語絵本を読むのは楽しい」(項目7)と感じている。「英語絵本を読むことに意欲的に取り組めた」(項目6)は87.9%、「英語絵本は今後も読みたい」(項目16)は87.9%で、英語絵本を読むことに対する好意度は高い。また、半期という短い期間に、「英文を読む速さが速くなった」(項目10)、「知らない単語があっても文脈から推測しながら読むことができるようになった」(項目11)、「語彙が増えた」(項目12)の平均評定はいずれも4.0~4.2で、英語で読むことに有能感⁽¹⁾が感じられている。事前の調査⁽²⁾では「英語が好き」という割合は24.2%であったが、72.8%の受講生が「英語を読むことに対する抵抗

感が以前より減った」(項目13)と回答しており、また、「絵本を読むことをとおして英語学習が楽しいと感じた」(項目14)「英語絵本を読むのは英語を学ぶのによい方法の一つであると思う」(項目15)と回答している割合は、それぞれ、84.9%、87.9%を占め、英語で絵本を読むことが英語学習として肯定的に捉えられている。

「声を出して読むこと(音読)は好きである」(項目2)という割合は42.4%、「どちらでもない」という割合は33.3%で、音読に対する好意度は高いとは言えないが、読み聞かせに関しては、「英語絵本の読み聞かせは楽しい」(項目8)、「英語絵本の読み聞かせが上手になりたい」(項目9)は、それぞれ、75.8%、78.8%を占め、音読に比べ、肯定的に捉えられている。注目したいのは、「英語を声を出して読めるようになりたい」(項目3)と回答した割合が87.9%と高いことで、英語絵本の読み聞かせ体験が英語音読に対する意欲に影響を与えた可能性があると考えられる。

4.2 読み聞かせへの肯定的な態度形成とその要因

上記アンケート調査結果から、英語絵本を読むことや読み聞かせが肯定的に捉えられていることが読み取れるが、このような肯定的な態度はどのように形成されたのであろうか。

英語絵本を読むことに関し、上記3.2で挙げた記述データ③の5つのカテゴリーのうち、「英語絵本への興味」「英語絵本の読みやすさ・取り組みやすさ」「英語絵本と英語学習」における複数の事例から読み取れるのは、英語絵本は、挿絵や内容に興味をもてること、挿絵があるので直感的に理解しやすく、英語絵本をとおしての英語学習は楽しいこと、単語が覚えられ、少しずつ理解できるようになることが実感できること、したがって、英語に苦手意識があっても英語絵本を読むのは嫌ではないことである。英語絵本への興味や英語絵本の読みやすさは英語学習としての取り組みやすさに通じており、自ら単語の意味を調べる積極性も出てきて、絵本を理解しようとする態度が

自然に生まれ、その結果、絵本を読むことへの肯定的な態度が形成されたと考えられる。

読み聞かせへの肯定的な態度に関しては、記述データ③の「読み聞かせ技能」と「読み聞かせへの態度」の2つのカテゴリーに見られる事例から、単語の読み方(発音)、抑揚のつけ方など、母語とは異なる言語で読む技能面での難しさを感じているが、「棒読み」、「淡々と読むだけでは意味も伝わらない」ことが体験をとおして実感されており、多くの学生に感情を込めて読もうとする態度が見られる。英語での読み聞かせは簡単ではないが、他の人の読み聞かせを聞いて刺激を受け、練習してうまくになりたい、読み聞かせが上手になって、いつかは子どもを楽しませたい、子どもと一緒に楽しみたいという気持ちをもつようになっている。このような積極的な態度が形成されるのは、一つには、好きな絵本には「愛情がある」ことや自分で選んだ本の面白さや楽しさを聞き手に伝えたいという思いが影響を与えるからであろう。また、「読んでいて楽しかった」「読めたときの嬉しさは大きかった」「はじめはただ読んでいただけだったが、ほめられたことが嬉しく、頑張ろうと思えた」など、読み聞かせ体験をとおして味わった楽しさや嬉しさなどの情動が、自尊心を高め、また、達成感となって読み聞かせへの意欲を高めていることも、読み聞かせへの肯定的な態度形成の要因の一つではないだろうか。

4.3 読み聞かせ技能に関する重要性の認識

上記2で、幼児保育専攻学生が読み聞かせ経験をとおして「声の大きさ・明瞭さ」「速さ(スピード)」「感情をこめる」「会話の工夫・声を変える」を重要な読み聞かせ技能として挙げていることに言及しているが、本調査におけるような英語絵本の読み聞かせ体験によりどのような読み聞かせ技能が重要と認識されたのか、記述データ①、②および③に見られる受講生の読み聞かせ行動をもとに考察する。

本調査においても、「はっきり・大きな声で読む」「ゆっくり・間を取って読む」「感情(気持ち)

表1 各項目における評定の回答率および平均評定値と標準偏差

(n=33 () 内の数字は人数を示す)

		評定段階					平均 評定値	SD
		よく当て はまる	当てはま る	どちらで もない	あまり当 てはまら ない	当てはま らない		
英語に関して：								
1	英語で読むこと（黙読）は好きである。	24.2% (8)	24.2% (8)	27.3% (9)	21.2% (7)	3.0% (1)	3.5	1.18
2	英語を声に出して読むこと（音読）は好きである。	18.2% (6)	24.2% (8)	33.3% (11)	24.2% (8)	0.0%	3.4	1.06
3	英語を声に出して読めるようになりたい。	39.4% (13)	48.5% (16)	9.1% (3)	3.0% (1)	0.0%	4.2	0.75
4	大学で英語をやり直したい。	30.3% (10)	27.3% (9)	36.4% (12)	3.0% (1)	3.0% (1)	3.8	1.02
5	英語は少しでも身につけたい。	45.5% (15)	39.4% (13)	12.1% (4)	3.0% (1)	0.0%	4.3	0.80
授業を振り返って：								
6	英語絵本を読むことに意欲的に取り組めた。	39.4% (13)	48.5% (16)	9.1% (3)	3.0% (1)	0.0%	4.2	0.75
7	英語絵本を読むのは楽しい。	57.6% (19)	33.3% (11)	6.1% (2)	3.0% (1)	0.0%	4.5	0.75
8	英語絵本の読み聞かせは楽しい。	39.4% (13)	36.4% (12)	21.2% (7)	3.0% (1)	0.0%	4.1	0.86
9	英語絵本の読み聞かせが上手になりたい。	48.5% (16)	30.3% (10)	21.2% (7)	0.0%	0.0%	4.3	0.80
10	英文を読む速さが速くなった。	33.3% (11)	33.3% (11)	33.3% (11)	0.0%	0.0%	4.0	0.83
11	知らない単語があっても文脈から推測しながら読むことができるようになった。	42.4% (14)	36.4% (12)	18.2% (6)	3.0% (1)	0.0%	4.2	0.85
12	語彙が増えた。	42.4% (14)	39.4% (13)	18.2% (6)	0.0%	0.0%	4.2	0.75
13	英語を読むことに対する抵抗感が以前より減った。	36.4% (12)	36.4% (12)	24.2% (8)	3.0% (1)	0.0%	4.1	0.86
14	英語絵本を読むことをとおして英語学習が楽しいと感じた。	39.4% (13)	45.5% (15)	9.1% (3)	6.1% (2)	0.0%	4.2	0.85
15	英語絵本を読むのは英語を学ぶのによい方法の一つであると思う。	60.6% (20)	27.3% (9)	12.1% (4)	0.0%	0.0%	4.5	0.71
16	英語絵本は今後も読みたい。	45.5% (15)	42.4% (14)	12.1% (4)	0.0%	0.0%	4.3	0.69

表2 重要性の認識が見られた英語での読み聞かせ技能にかかわる項目

重要性の認識が見られた項目	6月	7月	合計
感情（気持ち）を込めて読む	17	9	26
聞き手を意識して・目を見て読む	11	9	20
発音に注意し抑揚をつけて読む	8	11	19
スラスラ読む	9	6	15
ゆっくり・間をとって読む	10	1	11
内容理解	2	4	6
本の持ち方やページのめくり方	4	1	5
はっきり・大きな声で読む	3	1	4

(6月：第1回読み聞かせ 7月：第2回読み聞かせ)

を込めて読む」ことについてその重要性が認識されており、そのほかに、「発音に注意し抑揚をつけて読む」「スラスラ読む」「内容理解」「聞き手を意識して・目を見て読む」「本の持ち方やページのめくり方」に関して重要性の認識が見られた。表2は、記述データ①および②をもとにこれらの項目を記述件数の多い順に示したものである。

「感情（気持ち）を込めて読む」は、6月17件、7月9件、合計26件と、その記述件数の多さから、また、「棒読み」、「淡々と読むだけでは伝わらない」、「セリフはその人物が言っているように」「怒っているときは大きな声で」「悲しいときは小さな声で」など具体的な記述の多さからも、読み聞かせの技能として最も重要視されていることがわかる。一方で、「声の大きさ」は重要な読み聞かせ技能の一つであるが、「はっきり・大きな声で読む」に関して記述件数が少なかったのは、5人ずつの少人数グループで読み聞かせが行われたために、声の大きさは特に意識されることがなかったからであろう。「速さ」に関しては、「ゆっくり・間をとって読む」ことが意識されているが、これは、「意味が分かると読み方の工夫ができる」という気づきに見られるように、英文を読む際に意味の区切り（意味のまとまり＝チャンク）を考えて読むことの重要性が認識されていると言える。

英語で読むことに関して、「発音に注意し抑揚をつけて読む」ことおよび「スラスラ読む」ことに関する記述件数は多く、合わせると34件となり、英語で読むことの技能に関する重要性の認識は極めて高い。「スラスラ読む」とは、受講生にとって「つかかかったり」、「もごもご」読んだりせず、スムーズに読めることであるが、このような英語の音読スキルへの重要性の認識は、形式的な音読活動からは生まれにくい。後で述べるように、読み聞かせにおいては聞き手の存在をより強く意識せざるを得ないので、聞き手に伝わることへの重要性の認識を持つようになることが音読スキルの重要性の認識につながっていると考えられる。

「内容理解」の記述件数は、6月2件、7月4件で、件数としては多くはないが、7月には、「よく内容を理解している本は読みやすい」「内容を理解しきれていたらもっとよく読めた」など、内容把握の程度が読み聞かせに影響を及ぼすことが次第に認識されるようになってきている。記述データ③の「読み聞かせ技能」カテゴリーの事例では、「気持ちを込めて読むには内容をしっかり理解することが大切」「内容を把握していないと上手な読み聞かせはできない」など、記述データ②とは別の事例で6件あり、内容理解がよりよい読み聞かせにつながることへの認識は、表2で示された件数以上に多い。

内容理解は、他の読み聞かせ技能と関連が深く、影響を与える項目である。「感情を込めて読む」ことに関する記述件数は7月に半減しているが、これは、感情を込めて読むには内容理解が重要であることの認識がより高まったことの反映ではないだろうか。また、「ゆっくり・間をとって読む」も同様に、記述件数は減少し、7月には1件となっているが、内容理解を深めることで自然に間をとって読むことや速さの調節ができるようになることが認識されてきたことが記述件数に影響を与えたと考えられる。

「聞き手を意識して・目を見て読む」ことについて、その記述件数は合計で20件と少なくない。

その中身は、「聞き手の目を見て読めなかった」など8件、「子どもにわかるように読みたい」など7件、「楽しさや面白さを伝えられなかった」など4件である。いずれも、聞き手に伝わることの重要性の認識であり、読み聞かせにおける聞き手の存在が、読み聞かせ行動に影響を与えていることを示唆していると考えられる。

以上のように、学生が読み聞かせをとおして、読み聞かせ技能に関してその重要性の認識をもち、また、読みの技能に対する認識を深めていることがわかったが、それは、また、聞き手の存在を意識することで学生自身の読み聞かせ行動に影響を受けることを示すものであろう。

聞き手を意識した絵本の提示技法として「本の持ち方やページのめくり方を工夫する」ことの認識も見られるが、記述件数が少ないのは、読み聞かせ対象が少数であったことや聞き手がクラスメートであったことが関係しているためであろう。

4.4 まとめと課題

読み聞かせをとおして影響を受けるのは聞き手だけでなく、読み手としても影響を受け、読み聞かせへの肯定的な態度が形成されることは、英語絵本の読み聞かせという今回の調査でも明らかとなった。読み聞かせを体験した学生は、読む速さや感情を込めて読む表現力など、従来の実践的研究において望ましいとされてきた読み聞かせの技能への重要性の認識をもつようになるだけでなく、聞き手の存在を意識することで聞き手に伝わるよい読み聞かせへの認識をもつようになっている。このような認識が読みの技能への認識を深め、読み聞かせ行動に影響を与えていると考えられる。また、英語音読スキルや内容理解の重要性の認識がもたらされたことは、英語学習の観点から、読み聞かせは単なる音読トレーニング以上の効果があることを示しており、英語絵本の読み聞かせをとおして行う音読活動の有効性が示唆されていると言える。

本調査の分析・考察に当たっては、受講生の振

り返りの記述をデータとして用いたが、文字テキストデータに含まれる言葉は断片的で、意味を解釈するには十分でない場合がしばしばあった。学生自身の振り返る力の弱さにも起因するが、感じていることや学んでいることを意識化し文字化する困難さも見られる。よりよいデータを収集するためには、学生の振り返る力や言葉で表現する力をどのようにして引き出すかが目下の課題であり、効果的な振り返り支援のあり方を検討し、授業設計の中に織り込んでいく必要があるだろう。

5. おわりに

小学校教員を志望する大学生を対象にした小学校英語活動に関するアンケート調査によると、英語活動を行う必要性は高いと感じているものの、自身が教員として実践することへの不安も抱いており、特に英語に否定的な印象を持っている学生ほどその不安が強いことが指摘されている。また、そのような学生が英語活動の実践のために大学で学びたいこととして挙げているのは、「総合的・基礎的な英語力を身につけること」、「英語を正しく発音できるようになること」、「実際の指導法について経験的に学ぶこと」、「児童にとって楽しい授業を行えるようになること」であるという(名畑目、2014)。

絵本は、読み聞かせをとおして英語特有の音・リズム・抑揚などに慣れることができるばかりでなく、英語の文法構造に意識的にまた無意識的に触れることができる(樋口他、2013)ので、発音を含む総合的・基礎的な英語力を身につけるのに役立つ。また、英語絵本の読み聞かせは、本稿で示されたように、聞き手に伝わるように読む音読活動として英語力の向上に効果が期待できるだろう。外山(2010)は、読み聞かせは training on the job のようなもので、実際に子どもの前で読むときに初めて、適切な声色や表情を出せるようになると思うと述べているが、聞き手である子どもを意識してよりよい読み聞かせを目指すことは、楽しいコミュニケーション活動を行うための素地

を身につけるためにも有効な活動となるのではないだろうか。

《注》

- (1) 有能感とは、桜井(1997)によると、「自分はできるんだ!」「自分はやろうと思えばできるんだ!」という気持ちである。
- (2) 2014年4月に実施。アンケートの回答者は33名。その他の調査項目:「絵本(日本語)は好きですか」(100%);「英語絵本を読んだことはありますか」(27.3%)

参照・引用文献

- 樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子(編著)
(2013)『小学校英語教育法入門』研究社。
- 今井靖親・中村年江(1993)「絵本の読み聞かせに関する心理学的研究(Ⅳ)―幼児の物語理解に及ぼす視点と絵本提示の効果―」『教育実践研究指導センター研究紀要』2, pp. 67-75.
- 小玉容子・キッド ダスティン(2014)「英語で読書: 絵本の読み聞かせに挑戦」と学生による“Kids' English”の実践」『しまね地域共生センター紀要』1, pp. 47-52.

- 中村年江(1991)「絵本の読み聞かせに関する心理学的研究―絵本の読み聞かせに関する変数と望ましい読み聞かせ条件の検討」『読書科学』35, 4, pp. 149-159.
- 名畑目真吾(2014)「小学校教員を志望する大学生の英語活動に関する意識調査」『小学校英語学会紀要』14, pp. 131-146.
- 桜井茂男(1997)『学習意欲の心理学 自ら学ぶ子どもを育てる』誠信書房.
- 笹倉剛(1999)『子どもが変わり学級が変わる 感性を磨く「読み聞かせ」』北大路書房.
- 佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社.
- 竹下裕子・村上哲朗・柳沢昌義・森真理・鈴木夏美(2006)「総合的な視点に基づいた児童英語指導法に関する研究―英語を専科としない学生による積極的かつ専門的アプローチをめざして」『人文・社会科学論集』23, pp. 99-139.
- 玉瀬友美(2012)『「保育」の教育における読み聞かせ経験―その教育心理学的研究』風間書房.
- 外山節子(監修・著)(2010)『英語の絵本活用マニュアル』コスモピア.
- 上淵寿(編著)(2004)『動機づけの最前線』北大路書房.

資料1 事例—コード・マトリクス (記述データ①)

	読み聞かせ振り返り(6月26日)	緊張	はつきり・大きな声で読む	スラスラ読む	ゆっくりに間をとって読む	感情(気持ち)を込めて読む	発音に注意し抑揚をつけて読む	内容理解	聞き手を意識して・目を見て読む	本の持ち方・ページをめくり方	楽しさ	その他
事例1												
事例2	宿の前で本を読むことは始めてだったので、正直少し緊張しました。本のレベルは丁度いいと思いました。次からはもっとスラスラと感情を込めて読めるようにもってほしいと思います。		●少し緊張した	●スラスラ読めるようにしたい		●感情を込めて読めるようにしたい						たくさん読んできてほしい
事例3	もっと元氣よくやりたい。		●元氣よくやりたい									
事例4	最後まで読めなかったとあまり心を込めて読めなかった。このできなかったことをできるようにになりたい。					●心を込めて読めなかった						できなかったことをできるようにになりたい
事例5	だれかに本を読み聞かせることがどれくらい難しいのかながよく分かった。あまりスラスラと読むことができず、途中でつまったりしました。もう少しスラスラとゆっくりに読むことができればと思いました。			●スラスラ読むことができなかった	●ゆっくりに読むことができなかった				●誰かに読み聞かせるとは難しい			
事例6	今日は初めての読み聞かせて、大分緊張してしまっておくまうまう戻らなかつた。読むペースが少し早くなってしまいました。10秒あまり速かったのが次の課題だと感じました。YLレベルをもっと少しあげてみるか、語数の多いものに挑戦しようと思いました。でも、今日は感情を込めて読むことができたし、絵の多いページは少し止めてたり工夫して読むことができたので、もっともつとみがきかけようと思いました。それと声も大きな声で読みたい。	●緊張した	●大きな声で読みたい	●舌がうまく回らなかつた	●読むペースが速くなった	●感情を込めて読むことができた				○ページを少し止めた工夫ができた		YLレベルをあげるか語数の多い本に挑戦したい。もっと声きかけたい
事例7	練習した成果を発揮できたと思う。ティニーが歩いてくる音、ティニーがなめる音の効果音が難しくて自信なくやってしまった。効果音のところはできなかった。まだ少し恥ずかしがるところがあったから恥ずかしくならずに読めるようにしたい。でも、楽しく読むことができたことほすこよくやった。			●恥ずかしがるどころがあった		●歩いてくる音、なめる音などが難しかった						○楽しく読むことができた
事例8	読み聞かせは少し緊張したが、思ったより楽しんでやっていたうちに緊張もほぐれた。はつきり言えてきたと思う。セリフの部分はその人物が言っているようにやらないと思った。練習するぶんだけちゃんとできるから、発声とかも先生に考えてもらって何度もやっていたらよかった。他の人の手もてすこい上手だった。見ていて楽しかった。		●緊張はしたけど、やっていたうちに緊張もほぐれた	○はつきり言えた		●セリフはその人物が言っているようにやっていた	●発音を見ても良かった					○思ったより楽しかった。他の人が上手だった。見ていて楽しかった。
事例9	自分の読み聞かせはまだまだだと思います。なので次からはもうちょっと差を高く読みたいと思います。授業中ではもう少しついに授業を受けたと思います。											まだまだ
事例10	読めない単語が出てきました。長かったので頭はぐちゃぐちゃ。また読む本を間違えました。長く自分には難しくすぎました。感情を入れることができませんでした。どうしようか感情をいれたいのかかわりませんでした。					●感情をいれようとした	●読めない単語があった					自分には長く、難しくすぎた。
事例11	みんなに読ませながら話すのが難しかった。とても緊張して今までできなかったことができなかった。読めた単語も読めなくなつたし、できなかったゆっくりに読むようになってしまった。でも、自分なりに感情をこめて読むことができたと思う。少し恥ずかしかったけど、2分で読み切れなくて最後まで行けなかつたから、みんなに、この本を読んでほしいと思うくらいこの本に感情があります。	●とても緊張してできていたことができなかった		△ゆっくりに読むのが速くなった	○自分なりに感情を込めていけるように速く読んでしまった	●読めていた単語が読めなくなつた				●絵を見ながら話すのが難しかった		自分は最後まで読めなかったが、本には感情がある
事例12	できたことは、ちゃんと単語を読めたことです。できなかったことは、抑揚をつけて読めなかつたことです。できなかつたことは、子供向けじゃないなと思いました。(読む態度)できるようにならないことは、うまく読めるようにしたいです。						●ちゃんと単語が読めたが、抑揚をつけることができなかった		●子どもも向けて楽しめた			うまく読めるようにしたい
事例13	今日は読み聞かせをして、ナレーションをつけて子供が楽しめる空間をつくりました。次は、もっとレベルの高い本をよんでもっとナレーションを入れていきたいと思っています。								○子どもも楽しめる空間をつくった			もっとレベルの高い本を読みたい。

資料2 事例—コード・マトリクス (記述データ②)

	読み聞かせ振り返り(7月17日)	緊張	はつきり・大きな声で読む	スラスラ読む	ゆっくりに間をとって読む	感情(気持ち)を込めて読む	発音に注意し抑揚をつけて読む	内容理解	聞き手を意識して・目を見て読む	本の持ち方・ページをめくり方	楽しさ	その他
事例1	たまに、つかえてしまった。あまり聞いてくれる人の方を見えなかつた。でも、読んでいて楽しかった。他の人の話を聞いて、英語の発音が良く聞きやすかったり、文に合わせたイントネーションを変えていたりしての「見習いたい」と思った。			●たまにつかえた			●他の人の発音やイントネーションを見習いたい					○読んでいて楽しかった
事例2	今日は、前回の読み聞かせで読んだ本よりも少し難しい本をえらんだけど少し読めなくてなかつたので、本ばかり目をつけて、面白くない本を伝えることができませんでした。そこに注意して読むことが大事だと思います。								●面白くない本を伝えることができなかった			難しい本をえらんだ
事例3	今日は上手く出来ず、読んでいただけなので、次は、上手く表現込めて読みたい。だから、読みに来ます。					●ただ読んでいただけ						
事例4	今日は感情を込めたりすることができなかった。少しつかかかっただけ読めた。今度は子どもたちの前で、表現をつけて読みたいです。			△少しつかかかっただけ読めた		●感情込めてできなかった						子どもの前で読みたい
事例5	2回目なので前回よりも落ち着いて読むことができました。若干、気持ちを込めることを意識しながら読みました。しかし、やっぱり、まだまだということもあらためて実感しました。もう一度チャレンジしてもっと周りをながめながら読めたらと思います。	○落ち着いて読めた				△気持ちを込めることを意識しながら読んだが、まだまだ			△もっと周りをながめながら読めたらと思う			
事例6	もっと身振り手振りを加えたり、もっとうまく単語を強調できたんじゃないかと思いました。今回の読み聞かせは子供向けの発表ではなかつたと思います。よかつたところは、家で練習をしたので、スラスラ読めたし、スムーズに読めたし、今までより全然うまくよむことができた。			○スラスラ、スムーズに読めた			△もっとうまく単語を強調できたんじゃないか		△もっと身振り手振りを加えたりできた			練習したのでうまくよむことができた
事例7	読み聞かせのテストをした時に、2分という時間の中で読み終えることができなかったこと、読んでいて、周りに聞いてくれる人の顔を見えなかつた。本のそばから見えてやっていたので周りの反応も見えながらやりたいと思った。								●聞いてくれる人の顔を見えなかつた			周りの反応を見ながらやりたい
事例8	今日気づいたことは、自分はまだまだだと思いました。なので、城一先生とうすうすう練習したいと思います。なので、自分でもしっかりと練習の意味を持ちたいです。											まだまだ
事例9	ただ文字を読むだけでなく、もっと聞いてくれる人の表情をみれば良かった。録音さんの発表がすばしかりかった。発表がネイティブの人みたいだった。自分もみんな英語話してみたいなと思いました。						○ただ文字を読むだけにならなくて良かった		△もっと聞いてくれる人の表情をみれば良かった			発音のいい人を見習いたい。
事例10	絵本を感情を込めて読むことができなかった。単語を間違えて読んだ。子供むけに読めなかつた。					●感情を込めて読めなかつた	●単語を間違えた		●子供向けに読めなかつた			
事例11	発表をやつてあまり発音ができなかつたので次回リベンジする。						●発音ができなかつた					

